

## アンカラの政権交代？ 十分ありそうなこと

【訳者注】この簡単なロシア - トルコ (アメリカ) 関係の解説によって、ロシアは真正直に戦争終結と平和を求め、アメリカは、ロシアを巻き込んだ戦争の永続化・泥沼化を求めていることがよくわかる。また、オバマ政府がそのために弄する小細工が、いかに姑息で、破廉恥であるかも見えてくる。これでも、すべてロシアが悪いとか、どっちもどっちだ、などと言う人がいるだろうか？ この論文でも、2/15、2/21 の論文でも、ロシアの強いられる苦境の分析は変わらない。戦争をやめようと言う者に、他者を使って戦争を強いるということが、どれだけ罪深いことかを考えてみるべきである。

By Mike Whitney

February 25, 2016, Information Clearing House

金曜日、アメリカは、トルコのシリア侵略を防ぐことを意図した、ロシアによる解決提案を拒否した。モスクワは募る懸念に対処するために、緊急の国連安保理の招集を要求していた。ロシアの懸念とは、トルコが、自分の支援する民兵団を保護して、クルド民兵団が北シリアに隣接する国家を作るのを妨害するために、その南国境に配備していた何千もの地上軍と装甲車を、シリアに越境させようとしていることだった。モスクワの1ページの解決案は、すでに 25 万もの人命を要求し、この国を廃墟にしてしまった戦争の、無際限のエスカレーションを防ぐことを目指す、完全に真率な文書だった。

ロシアの国連大使ウラジミール・サフロニコフによれば、「このロシアの解決案の主たる要素は、双方の側や派閥がシリアの国内問題に干渉するのをやめること、シリアの主権と独立を完全に尊重し、侵入をやめ、地上作戦の計画を放棄することである。」

この解決案はまた、モスクワの「シリア・アラブ共和国領内への、外からの地上介入を狙う、軍隊の度重なる準備活動の報告に対する、真剣な警鐘」を表明している。

この解決案について論争になるようなことは全くなく、いかなるトリックも隠れた意味もない。代表団は単に、シリアの主権を支持し、軍事的侵略に反対するように求められただけである。これこそ国連が基礎としている原理そのものである。アメリカとその同盟国は、これがワシントンのシリアにおける地政学的な野心と一致しないがために、これらの原理を拒絶した。

この案を潰すということは、明らかに、ワシントンがシリアの平和を望んでいないことを確認させる。それはまたオバマ政権が、アメリカがいまだに勝利を得ようとしている戦争の成り行きに、トルコの地上軍が、重要な役割を果たすだろうと考えていることを示している。忘れてはならない——もしこの解決案が通ってれば、トルコの侵略の脅威は、立ちどころに消え去っていたはずだ。

なぜか？ それは、トルコ軍が「国連安保理の承認がなければ、国境を越えて軍隊を送るつもりはないと、公的に表明していた」からである。(ワシントン・ポスト)

[https://www.washingtonpost.com/world/middle-east/turkeys-increasingly-desperate-predicament-poses-real-dangers/2016/02/20/a3374030-d593-11e5-a65b-587e721fb231\\_story.html?tid=pm\\_world\\_pop\\_b](https://www.washingtonpost.com/world/middle-east/turkeys-increasingly-desperate-predicament-poses-real-dangers/2016/02/20/a3374030-d593-11e5-a65b-587e721fb231_story.html?tid=pm_world_pop_b)

西洋の多くの人々は、トルコ大統領 **Recep Tayyip Erdogan** (エルドアン) は独裁的権力者で、いつでも好きな時に命令して、自分の軍隊を戦争に送り出せるのだらうという幻想を抱いている。しかしそうではない。エルドアンは確かに、軍内部の多くのライバルを追い出したが、トップの階級はいまだに、文官統制からのある種の独立を保持している。トルコの將軍たちは、将来自分が、戦争犯罪で起訴されることがないという保証を欲しがっている。その最上の方法は、どんな侵略であっても、アメリカと NATO、または国連からの祝福を得られるようにすることである。

オバマ政府はこの力学をよく承知していて、だからこそこの解決案を潰した。オバマは、トルコ軍が、ワシントンの今継続中の代理戦争に、ロシア主導の同盟軍を最終的に引き込むことができるように、ドアを開けておきたかったのだ。ここから考えられることは、シリアにおけるワシントンの第一の目的は、もはやシリアのアル・アサド大統領を排除することではなく、終わることのない戦争にロシアを引きずり込むことである。

アメリカが、国連でのモスクワの解決策を拒否してからほんの数時間後に、ジュネーブで密室会談が行われ、高位の米露の軍関係者が戦争終結の展望を話し合った。“敵対関係の終結”と呼ばれるこの休戦は、一時的に戦闘を停止して、叩かれたジハーディストやアメリカ支援の反乱軍が、将来いつか、陣営を立て直すことができることを狙ったものである。モスクワもワシントンも、シリア全土の戦争で荒廃した都市に人道的援助を行い、“政治的変移”を達成しようとしているが、両側とも、将来の政府におけるアサドの役割については、完全に対立している。ワシントン・ポストによれば——

克服すべき多くの問題の一つは、テロリスト集団とは何であるかについての異なった

定義である。イスラム国や、シリアのアルカーイダ系集団であるアルヌスラに加えて、ロシアとシリアは、敵対者全体をテロリストと呼んできた。

トルコの北西国境で穏健派反乱軍と混じり合って戦っているジャブハット・アルヌスラは、特に問題集団である。ロシアは、グループが仕分けできるときまで、アルヌスラを、少なくとも一時的に、休戦の一部として爆撃の対象外にしようというアメリカの提案を、退けたと言われる。(ワシントン・ポスト)

[https://www.washingtonpost.com/world/russia-says-international-meeting-for-syria-cease-fire-cancelled/2016/02/19/47179aac-d692-11e5-a65b-587e721fb231\\_story.html](https://www.washingtonpost.com/world/russia-says-international-meeting-for-syria-cease-fire-cancelled/2016/02/19/47179aac-d692-11e5-a65b-587e721fb231_story.html)

繰り返そう——「ロシアは、グループの仕分けができるときまで、アルヌスラ（アルカーイダと同類）を、少なくとも一時的に、休戦の一部として爆撃の対象外にしようというアメリカの提案を、退けたと言われる。」言い換えると、オバマ政府は、9・11のテロ攻撃で3000人のアメリカ人を殺した、そして何万という無辜のシリア市民を殺したグループの類縁集団を、保護したかったのである。殺されたシリア市民の罪とは、これらワーハビ傭兵集団がイスラム・カリフ国に作り替えようとした国に、たまたま住んでいたというだけである。当然のこと、モスクワは、このような見え透いた企みに、調子を合わせなかった。

にもかかわらず、国務長官ジョン・ケリーは、日曜日、彼と彼の同役セルゲイ・ラヴロフは、「シリア内戦の一時的休戦に“原則の暫定的合意に達し”それは数日後に発効する」と発表した。しかし誰も、どのようにして「停戦を強制し、どのように亀裂が解決できるか」を知っている者はいない。

オバマがいかにか偽善的であるかを考えてみるとよい。彼は国連でのロシアの解決提案を拒絶し、その数時間後に、米露の姑息な休戦の保護の傘の下に、アルカーイダを置こうとしたのである。ここから、アメリカのいわゆる“テロとの戦い”の意味が分かってくるのではないか？

一方トルコでは、エルドアンがシリアを侵略するという脅迫は、先週アンカラで28人を殺し、61人を負傷させた自動車爆破に続いて、強化された。トルコ政府は、シリアのトルコ民兵団（YPG、クルド側）に関係をもつ若い活動家サリー・ネッカルが犯人だとした。しかし爆破から24時間も経たないうちに、政府のこの見方は崩れ始めた。…DNAサンプルによると、ネッカルが犯人ではなく、最初から責任を主張していたグループ（TAK）のメンバー、アブドゥラバキ・セーメルが犯人だと判明した。これを書いている時点で、政府はいまだに、戦争の口実を作るために人民にウソをついたことを認めていない。エルドアンと彼の過激派閣僚たちは、完全にウソとわかった情報を、シリア侵略の脅しとして使い続けている。

土曜日、ユネスコの集会で彼はこう言った――

トルコは、シリアにおいて戦闘行動を起こすあらゆる権利をもつ。我々の直面する脅威によって戦闘が起こっている場所に巢食う、テロ組織に対しても同様だ。…何びとも、トルコを標的とするテロ行為に対して、トルコの自衛権を制限することはできない。

このことから、なぜ、トルコがシリアの領土を、先週一週間、砲撃し続けたのかがわかる。それはまた、なぜエルドアンが、スンニ派ジハードイストに、トルコを通るフリーパスを与え、シリア軍に対して勝つ見込みのありそうな戦闘地帯に手引きしたのかを説明する。ニューヨーク・タイムズはこう言っている――

シリア反乱軍は、少なくとも 2000 の補強兵団を、先週中にトルコを通じて導入し、アレppo北のクルド主導の民兵団との戦いを優勢にしようとしている、と反乱軍ソースは木曜日に話した。

トルコ軍は、ひそかに反乱軍に付き添いながら、一つの前線から別の前線へ、数日かけて夜間に移動するのを助け、シリア領 Idlib から抜け出し、4時間かけてトルコを通過し、再びシリアに入り、攻められている Azaz の反乱軍の堡壘を援護した、と彼らは言った。

「我々は、軽兵器から重兵器、迫撃砲、ミサイル、それに戦車など、あらゆるものを動かす自由を与えられている」と、反乱軍レヴァント・フロントの司令官は、Abu Issa という匿名を条件に、ロイター通信に語った。(ニューヨーク・タイムズ)

<http://www.nytimes.com/reuters/2016/02/18/world/middleeast/18reuters-mideast-crisis-syria-aleppo.html?ref=world& r=0>

オバマ政府は、エルドアンが戦争を煽っているとわかっているが、わざと見ぬふりをしている。そしてオバマはトルコに対し、シリア領を砲撃するように勧め、それと同時に“トルコの自衛権”を認めている。これ一つとっても、ワシントンのやり方のずるさの程度がわかるだろう。

では、ワシントンのシリアでの作戦はどうなのか？ オバマ政権は ISIS を負かして敵対行動をやめさせることに本気なのか、それとも彼は、何かを袖の中に隠しているのか？

第一に、ワシントンは ISIS などに関心は全くない。この集団は単にわら人形で、アメリカが、国益のかかっている領域で軍事行動をするときに、役に立つだけである。もし ISIS と

いう悪霊が明日からいなくなったとしても、ホワイトハウスは、また別のお化け——ドラッグ戦争とか、そのような滑稽なもの——を作り出して、破壊行為が途切れないようにするだろう。ワシントンにとって肝要なのは、米 - イスラエルの野心にとって長期間の脅威となる、強くて、世俗的なアラブの諸政府をバラバラにすることである。本当に関心のあるのはそれだけだ。もう一つの明らかな目標は、重要な資源と、EU へのパイプライン回廊をコントロールし、これらの資源が、米ドルによる継続的な支配下にあるようにすることである。

我々は、アメリカ - クルド同盟 (YPG) が、シリアにおけるアメリカの戦略的利益を本当に増進はしないと考えている。アメリカは、クルド国家などに興味はなく、ジハーディスト民兵団が、シリアの国境地帯の北の 4 半分を支配しようが、知ったことではない。米 - YGP 同盟の本当の目的は、トルコを怒らせ、彼らを挑発してロシア主導の同盟との、国境越しの戦争に彼らを追い込むことである。もしトルコが地上軍をシリアへ出兵するならば、その時にはモスクワは、必死に避けようとしてきた泥沼に直面しなければならなくなるだろう。トルコ軍は、アメリカの援助してきたジハーディストや他の代理軍の、代わりとして役立つだろう。これらの代理軍は過去 5 年間、戦争を進めてきたが、今、完全に引き下がったように見える。

もっと重要なことは、トルコの侵略行為がトルコ内部の分裂を悪化させ、エルドアン政権の権力保持を深刻に腐食させる一方で、弱点を作り出し、これをアメリカが、トルコの軍や情報局 (MIT) の要員との協力のもとに、利用する可能性があることである。究極の目的は、社会的騒乱を作り出し、CIA がキエフでやったような、ワシントンに統制されたクーデタによって、面倒を起こすエルドアンを処分するカラー革命を起こさせることである。

オバマがエルドアンに、ひそかにゴーサインを出し、彼の軍隊がシリアに向かって越境したとたんに、彼の足元から絨毯を引き抜くというシナリオは、十分考えられる。同じような悪戯が、1990 年、イラクへの米大使 April Glaspie が、サダム・フセインにクエート侵略のゴーサインを出したときにも使われた。イラク軍がその目的地に達するか達しないうちに、アメリカは大規模な軍事作戦 (砂漠の嵐作戦) を開始し、サダムは、急速にあの悪名高い「死のハイウェイ」を退却させられ、そこで 1 万名以上のイラク正規軍が、アメリカの火力の悪徳的な殺人ショーによって、座ったままのアヒルのように殲滅させられた。それが、ワシントンの、サダムを倒し、言うことを聞くアラブの従僕に置き換える最初の段階だった。

同じ政権交代のトリックが、今、エルドアンに対して仕掛けられているのだろうか？

確かにそのように見える。